

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800195
法人名	社会福祉法人 親孝会
事業所名	グループホーム 太陽の郷
所在地	福岡県飯塚市鯉田字古堤516番地17
自己評価作成日	平成25年3月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成25年3月18日	評価結果確定日	平成25年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年の5月で開設5年目を迎えます。社会福祉法人親孝会は平成6年4月に飯塚市下三緒に特別養護老人ホーム太陽の郷を開設しました。その後、ショートステイ・ケアハウス・デイサービス・居宅支援事業所等を開設し運営しています。平成21年5月より、飯塚市鯉田にて介護付有料老人ホーム・グループホームを開設しました。当施設のスタッフのみでなく、法人全体で利用者の皆様(ご家族)を支える体制を整えています。地域密着の精神を重視して利用者個人個人に合わせた介護を実践しています。法人としてISO14001を取得しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護付き有料老人ホームが併設され、ゆとりをもって造られた平屋建ての中央部分には広い中庭が配されている。花壇や菜園が設けられ、ウッドデッキに面した開口部も大きく、開放的な生活空間となっている。日常的に併設施設との交流や連携を図り、サービスの向上に結び付けている。個別支援を念頭に置き、センター方式を参考にしたアンケートを実施し、本人、家族の「暮らし」や「思い」に関する情報を収集している。これまでも、個別の地域性に目を向け、出身地域の行事等への参加を継続して支援した経緯もあり、今後の多面的なアプローチへと結び付けていくことが大いに期待される。また、地域の様々な分野の長が集まる「長さん会議」への出席や、新たに発足した飯塚市地域密着型サービス連絡協議会では役員を務める等、関係者との連携を一つ一つ積み重ね、地域づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が ○ 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人全体の理念の基、グループホーム独自の運営方針を作成しており、職員間で共有し実践につなげている。	法人理念のもとに、地域密着型サービスとしての独自の理念を掲げている。これまでに理念の再構築に取り組んだ経緯もあり、立ち戻る原点をあらためて明確にしている。定例会議や新規採用時の研修において、理念の浸透を図り、実践に結びつけるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が、地区の各長が集まる長さん会議に参加して地域の情報を得ている。又、地域の行事には可能な限り参加している。	管理者は、地区の長さん会議(様々な分野の長の方による会議)に出席しており、各方面より地域情報やアドバイスを頂いている。地域の行事には積極的に参加し、子供サークルの紙芝居の発表会には、施設のホールを提供する等、相互の交流が図られている。協力医療機関の医師との連携により、認知症啓発活動に取り組んだり、実習性の受け入れを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	穎田病院医師による認知症講座やオレンジリングの講習を当事業所で開催し、地域の人々にも参加して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、定期的で開催している。当事業所の取り組み等を報告しご意見やご指摘を頂いている。	運営推進会議は、自治会会長、地区社協会長、地域代表者、市職員等の参加を得て、2ヶ月に1回、定期開催されている。状況報告や意見交換を行い、出された意見や指摘等をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が、飯塚市地域密着型サービス連絡協議会の役員を務めており、行政との連絡を密にとっている。又、介護相談員の訪問を受け入れている。	月に1回、市の派遣する介護相談員の訪問がある。また、毎月開催される地域密着型サービス連絡協議会では副会長の役を担い、会議開催や研修実施を通じて、行政や事業所間の連携構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない取り組みを実施している。玄関は併設の介護付有料老人ホームから出入りを行っている。介護付有料老人ホームの玄関は施錠はしていない。	地域密着型サービス連絡協議会での企画を通じて、外部講師を招き、公民館で身体拘束に関する研修を実施している。また、共用玄関は施錠されておらず、センサーも使用していない。言葉や対応による抑制にも意識を持ち、職員間での共有認識を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対して虐待に関する研修を行い、防止に努めている。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名、成年後見人制度を利用されている利用者がおられる。成年後見人の方が月に1度は訪問されて連絡などをとっている。	入居時に、権利擁護に関する制度について、情報提供を行なっている。現在、制度を活用している方もおり、研修や会議において理解を深め、また、関係者との連携を図っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本年度の介護報酬改定の際は、ご家族に説明を行いご理解を得た。但し、ご本人にご理解を頂く事は困難であった。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置している。又、口頭でもご意見、要望を頂いている。	第三者委員を設置し、重要事項説明書の中で案内を行っている。家族会の発足には至っていないが、行事等を家族にも案内し、コミュニケーションを大切にしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回、サービス向上会議、職員全体会議を開催しており、職員の意見や提案を聞いて運営に反映させている。	併設施設との合同にて、全職員が参加する会議が開催されている。職員の意見や提案は、サービス向上会議等にて検討され、運営に反映させるよう努めている。職員の提案により、情報を収集する為のアンケート調査が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件や職場の環境に配慮し、職員が働きやすい環境にするよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	配慮している。ハローワークを通して職員の採用を行っており、求人票にも性別や年齢は不問と記されている。	ハローワークを通して法人としての採用となり、グループホームで面接を行っている。年齢や性別による排除は行っていない。職員個々のスキルアップをサポートし、資格取得や研修参加に向けた配慮を行なっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重に関しては、グループホームの運営方針にも掲げており、職員間で周知している。	研修や会議を通じて、様々な視点から人権教育、啓発に努めている。	

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修案内等を配布し研修を受ける機会を設けている。又、法人内でも随時研修を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯塚市地域密着型サービス協議会を通じて、他の事業所との交流を図っている。又、サービス協議会内に研修部会、研究部会、広報部会が発足している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本人の訴え、要望には素早く対応している。又、訴えを待つのではなく、こちらから汲み取る努力をしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の要望は可能な限り取り入れる努力をしている。相談にも応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際、ご家族と連絡を取り、ご本人がどのようなサービスを受けていたのか、どのようなサービスをして欲しいのかをお聞きして介護計画を作成している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ノーマライゼーションの理念を基に取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と綿密に連絡を取りながら、ご本人にあったサービスを提供出来る様に努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方の出身地の行事や祭りに積極的に参加出来る様に努めている。当事業所が力を入れて取り組んでいる事の一つである。	個別支援を重視しており、出身地域の行事への参加を積極的に支援している。アセスメントの充実により、関係性の継続に向けた、新たなアプローチも期待される。	

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日、利用者全員が参加出来るレクリエーションを行い利用者が孤立をしない様に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人やご家族を当事業所の行事にお誘いしたり、法要に出席させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の一部を活用し、情報収集を行っている。又、個別処遇に力を入れている。	センター方式の一部を参考にし、アンケート方式で情報収集を行なっている。ライフスタイルや生活歴等の情報を収集し、カンファレンス等にて検討され、個別の暮らしや認知症へのアプローチへと結びつけていけるよう取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の一部を活用し情報収集を行っている。又、ご家族にも聞いて情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアを通じて、利用者一人ひとりの状態把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者、ケアマネジャーを中心にリアルタイムに対応した介護計画を立案し実施出来る様に努めている。又、ご本人、ご家族の参加する担当者会議を開催している。	本人、家族の参加する担当者会議を開催し、個別の思いやニーズを介護計画に位置付けている。モニタリングやカンファレンスを通じて、現状の確認と見直しの必要性について検討している。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記録する様に取り組んでいる。更に、記録の充実を図る様に努めた。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の介護付有料老人ホームの機能訓練器具を使って機能訓練を実施している。又、法人全体でバックアップ出来る体制を取っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	開設して4年目となり、地域に浸透してきており、地域資源も活用出来る様になって来ている。更に活用出来る様に取り組みたい。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、医療連携を締結している潁田病院の受診となるが、必要に応じてかかりつけ医の受診も行っている。	入居時に、かかりつけ医や協力医療機関について、意向を確認している。家族との連携を図り、受診を支援している。併設施設との連携も含め、適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の介護付有料老人ホーム看護師の助言や協働があり適切な看護や往診、受診等が出来る。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療連携を締結している潁田病院は勿論の事、他の病院においても、綿密に連絡を取り合い、入退院の対応等において問題なく行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化(看取り)指針の見直しを行い、職員に研修を行った。医療連携を締結している潁田病院の支援の下、看取りを経験している。	入居時に、重度化や終末期のあり方について、指針をもとに説明を行っている。今年度より、同意書を作成し、入居時の意向確認を明文化している。状況の変化に伴い、関係者間での話し合いを重ね、方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修や消防署主催の救急救命講習を行った。更に強化して取り組む必要がある。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行っている。今後は地域との協力体制の強化や夜間対応訓練に力を入れる必要がある。	併設する、有料老人ホームとの合同訓練となる。地域の「長さん会議」等を通じて、防災や災害時の連携について、働きかけを継続していく意向である。	様々な災害を想定した対策や地域との相互の連携体制の確認、ライフラインが遮断した場合の準備等、今後の更なる充実が期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応は概ね出来ている。一人ひとりの人格を尊重する事は当事業所の理念の一つである。この理念の基、更に接遇や言葉遣いの強化に取り組まなければならない。	倫理、法令遵守に関する研修や、理念の共有に向けた取り組みを通じて、職員の意識を高めている。職員が自己点検を行う機会を持ち、日常的に確認を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけてはいるが、充分汲み取れてはいない。なお一層取り組まなければならない。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望を聞くように働きかけてはいるが、充分汲み取れてはいない。なお一層取り組まなければならない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の介護付有料老人ホーム厨房で職員が調理をしている。但し、利用者にはスープを注いで頂いたり、片付けをして頂いている。又、月に数回、利用者の方と朝食作りや夕食作り、おやつ作りを行っている。	調理は法人厨房で行われ、つぎわけや後片付けの際に、個別の役割を担っていただいている。また、月に数回、食事作りやおやつ作りをホームで行う機会を設けている。うどん店や道の駅などで外食に出かけ、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。職員スキルチェックや業務意識調査を実施し、食事介助等について、自己点検や振り返りを行っている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人に応じた食事形態を提供している。水分チェックは毎日実施している。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に応じた口腔ケアを行っている。歯科医による口腔ケアの研修を開催した。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来ている。声掛けや誘導を行いトイレでの排泄をして頂いている。	排泄チェック表を作成し、個別の状況やパターンの把握に努めている。日中は、出来る限りトイレでの排泄を支援し、夜間は個別の状況を鑑み、支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	併設の介護付有料老人ホームと入浴設備が共用である事から入浴日は曜日を決めて週3回実施している。	浴室は併施設設との共有となり、週3回の入浴スケジュールが設定されている。状況に応じて、シャワー浴には柔軟に対応している。リフトが設置されている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人に合わせて出来ている。個室という事もあり、概ね皆良眠されている事が多い。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、看護師の指示の下に取り組んでいる。		
50		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援の努力はしているがまだ向上の余地はある。徐々に実現出来る様に取り組んでいる。		

福岡県 グループホーム 太陽の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には対応出来てはいないが、個別に計画を企て、ご本人の希望に合った外出を行っている。	希望を把握し、大型ショッピングモールへの買い物や道の駅等での買い物や食事に出かけている。複合施設中央には、畑や花壇が設けられた広い中庭があり、気軽に外気浴を行うことができる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	出来ていない。当事業所側で利用者一人ひとりの金銭管理を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望や要望があれば対応出来る。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮、工夫している。居室の整理整頓に努めている。	併設されている有料老人ホームへの行き来も自由に行われており、共有空間としての広がりがある。複合施設中央に設けられた広い中庭には、菜園や花壇、ゆとりあるスペースのウッドデッキが設けられている。法人として、ISO14001を取得している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースではあるが、出来るだけ自由に過ごして頂ける様にしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は個人個人のお好みに合わせて自由に使用して頂いている。	採光の良い各居室には、洗面台が備え付けられている。仏壇や筆筒、テーブルセットやテレビ等が持ち込まれ、個別の居室作りに配慮されている。入口には本人が作成された作品や行事の写真、室内にも馴染みの小物が飾られている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、テーブルや椅子等の配置にも配慮し安全な環境づくりに努めている。		